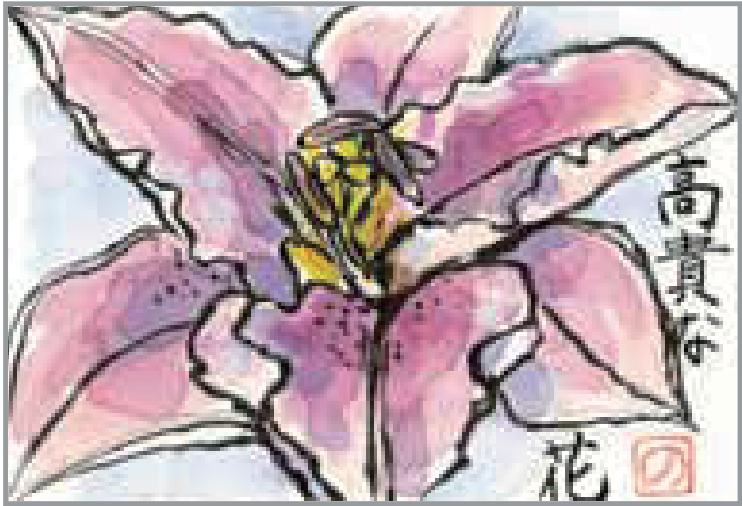




健康よもやま話 ④



姫野病院：松浦 緑郎
(健康管理士一般指導員)

● E D

女性の方は「ED」という言葉にあまり馴染みがないかもしれませんが、正しくは“Erectile Dysfunction”の略で、男性の勃起障害の意味です。その定義は、「満足のいく性行為を行うだけの勃起、およびその状態の維持が持続的に不可能な状態」とされています。



ここまで読むと、「ED」などと、もったいぶった言い方をしているけど、要は、“インポテンツ”（通称：インポ）Im(No) Potenz(Power)：不能”と同じじゃないか、と気付かれた方もいるかと思いますが、確かに“ED”と“インポテンツ”は同じです。

EDという言葉が目立つのは、インポテンツとか不能と事実をそのまま言ってしまうのは露骨すぎるというので使われなくなったのです。世の中、すべて思いやりの時代というわけですが、インポテンツをEDと言い換えてみても、当人の悩みが軽くなるわけではありませんから、あまり意味がないことは確かです。

さて、EDの原因は「器質的」と「機能的」に2つに分けられます。このうち器質的というのは、動脈硬化から陰茎に十分な血液が流れ込まないことや勃起を促す脊髄神経が遮断されたこと、さらには怪我などによるものがありますが、こうした例は実際にはそれほど多くはないようです。

それよりも圧倒的に多いのは機能的原因によるもので、こちらのほうは体はどこも悪くないのに、精神的な理由から不能になるのです。このように書くと、どうして精神的理由でEDになるのか不思議に思う方もいるかもしれませんが、陰茎は気持ちの持ちようで大きくも、小さくもなるのであり、男の性は女性が考えている以上にナイーブでデリケートとなのです。

つまり、女性がその事実を知り理解することがED治療の原点であり、この意味からも妻や恋人は医師・看護師であり、ときに加害者にもなりえるわけです。女性はEDの男に対して、その性を受け入れるだけではなく、助け、包容していく姿勢も必要です。

西公民館の絵手紙教室、「彩和の会」に参加して、数年になります。大坪先生の手ほどきをあてに、なかなか上手くなりませんが、持ち寄った草花や果実を愛でながら描くのは、至福の時間です。同窓会を機に、友達と文通が再開し、かこさとしさんの絵葉書きが届きました。「おたよりかこう、おへんじだそう」という挨拶文が載っていました。大変共感いたしました。これからも、絵筆を持つ事を心掛け、先生や会の皆様とのご縁を大切に、精進していきたいものです。



八女市新庄
服部 暢子

アジサイの「ロウ画」



筑後ジュニア展 金賞
福島中2年 伊藤 奈央

庭先に咲いたアジサイを題材にした。水彩で描き上げるのに約一カ月ほどかかった。

枯れはじめた花もあったがそれぞれの持つ色は美しい。バックまで水彩絵の具で描きあげたとき、画用紙全面に「ロウ」を力強く塗らせた。「ロウ」は透明である。アジサイもバックも消えない。つぎにアジサイの花びらを五寸クギで力強く輪郭をとらせ、バックにも適当にクギで傷をいれると削られた「ロウ」は、はげ落ちた。つぎに画面全体に毛筆で墨液を丹念に力強く塗らせた。とくにクギ跡には。墨液が完全にかわ

くのを待って、ナイフで全画面の「ロウ」を削って仕上げたのがこの作品である。削りのこされた墨液が不思議な効果を生んでいる。さらにバックの処理にはクレパスも加えさせた。絵を描くのに法則は無い。材料にも。鉛筆一本で描いても絵である。それに枯れた花も美しいということをお春期の中学生に体得してほしかった。作者は見事にこたえ、この絵に賞を与えた主催者の慧眼にも感謝したい。

子どもの絵の教室 杉山 亜土



野鳥ウォッチング ④
タシギ

タシギはシギの仲間では中型で、旅鳥として冬にやってきます。

水田で見ることができ、くちばしで泥を探りミミズや虫類を食べ、近づくと「ジャーツ」と鳴き飛び立ちます。

矢部村 栗原 浩暢

「八女農みらい館」は15周年 ありがとうございます 八女農業高等学校

みらい館では、レンゲ・アイガモ農法で栽培した「レンアイ米」、新鮮な卵・野菜・果物、季節の花苗や鉢花・切り花、ペットボトル茶の「八農高茶（はつのこうちゃ）」や煎茶、福岡県6次化商品コンクールで奨励賞を受賞した「玉露のめぐみ（玉露クッキー）」や各種ジャム・焼き立てパン・焼き肉のたれ、本校の茶葉と卵を使用した「お茶クッキー」、堆肥やぼかし肥料など、たくさんの農産物や加工品を販売しています。3年生が販売実習をしています。自ら栽培・飼育・加工した農産物を販売し、地域の方々と交流をすることで、生徒の学習意欲向上にも効果を上げています。また、システム園芸科による季節の花の販売や寄せ植え講習などもしておりますので、ご協力よろしくお願いします。

4月の校内販売所(みらい館)の開館日

2日(火)、5日(金)、16日(火)、19日(金)、23日(火)、26日(金)

販売時間は、10時30分～15時30分です。

(※4月2日(火)・5日(金)の販売時間は、12時30分まで)

皆いつかはこの施設から旅立つ。その時に少しでも生きる力が、増えたい。種から芽を出し、精一杯太陽の光に向かって伸びていく。そう願っている。私は今日も子ども達に元気をもらっている。森 志穂

呟き

芽吹くとき

なんて所に来てしまったんだ。私にはできない……。小学校・高校までの発達障がいを持つ児童支援施設で働き始めた初日、余りの事の重大さと支援の大変さに胸の中でつぶやく。言葉を発せない、トイレで用を足さない、感情をコントロールできない：そんな様々な子ども達とどう対応すればよいの？と、戸惑うばかりの日々。

それから3年。たとえ言葉を発することができなくても気持ちの繋がった時の喜び。何かをできるようになった成長の姿を見た時の感動。毎日それらが積み重なっている。

この春、3名が高校を卒業し社会人となる。一人の彼女とは女性同士として何でも話す。「あら、お互いに今日は生理中やね。じゃ静かに机で卓球をやるうか」と言いながらゲラゲラ笑って卓球をした。いつも明るかった彼女。それが最後の利用日だ。一人の彼は、3年前はマットに寝そべるだけで動くこともしなかったのに、今ではボールを投げたらキャッチして投げ、ボールを蹴ると蹴り返す。話せなかったのに、今は口を一生懸命開けて「あーりーがーとー」。

その表情がかわいい。一人の彼は、人との会話がなかなか成立しないが細かいタワいの絵を描くのが好きで、無心に時には机に落書きした。「ももいろクローバーZ五人！男！」と、わざと違うことを言って私を笑わせたり、アイドルの歌を歌ったり。家への送りは彼との楽しい時間。ある日、家に着くと「就職先が決まりました。お世話になりました」と、お母さんが言われ胸が熱くなった日、それが彼との最後の日だった。

皆いつかはこの施設から旅立つ。その時に少しでも生きる力が、増えたい。種から芽を出し、精一杯太陽の光に向かって伸びていく。そう願っている。私は今日も子ども達に元気をもらっている。森 志穂